

クラス	TU312	担当教員	鈴木庸裕 (のぶひろ)
テーマ	学校福祉論と家庭—学校園—地域をつなぐソーシャルワークの創造		
著書・論文 研究課題等	『学校福祉論入門』(単著) 学事出版、2021年、『学校福祉のデザイン』(単著) かもがわ出版、2017年。『学校福祉とは何か』(編著) ミネルヴァ書房、2018年。『多文化社会を生きる子どもとスクールソーシャルワーク』(編著) かもがわ出版、2018年。『子どもの貧困に向きあえる学校づくり』(編著) かもがわ出版、2018年。 研究課題：学校福祉をめぐる多職種協働，学校ソーシャルワークの実践と理論。		
ゼミナール概要			
キーワード：学校福祉，学校におけるソーシャルワーク，多職種協働，チームアプローチ，地域生活指導。			
<p><目的・内容></p> <p>現場に足を運び、いま、何が起きているのかを確かめようとする。その際、目に見えるものが真実とは限りません。さらに、つねに私たちに真実を見抜く力があるとは限りません。そんなときに、まず、物事の背景には何があるのか、どうしてそうなるのかをみずからの手で確かめてみる。何が本当なのか。自分の思い込みや経験で決めつけず、わからなかったら徹底的に文献や資料を読んだり、その道のさまざまなオーソリティや当事者を尋ね(訪ね)てみる。ゼミの目的はその入り口に立つことだと思います。</p> <p>このゼミは、いじめや不登校、子どもの貧困、発達特性への対応、非行、暴力、虐待など特別なニーズをもつ子どもたちをめぐる社会的問題に対し、1つの専門性や専門職では解決できないのではないだろうかという問いをもとに、教育と福祉、心理、医療、看護、保健、司法などのつながり(橋渡し・ソーシャルワーク・人材育成)による問題解決を考えます。</p> <p>ゼミでは1つの例として、スクールソーシャルワークの視点から、問題の解決や軽減をはかる教育実践について考えて行きます。専門職をめざす上で、相談援助の技術やチーム会議の進め方、子ども理解の方法、地域の関係機関の連携、アセスメントのあり方などを持ち合わせるためのいわば「素地づくり」を深めたいと思います。これからの専門職の育成という点で、教育職や保育・福祉職、心理職などの分野の人々とともに学ぶ多職種協働学習の機会(学習会や学会への参加)や他学部の学生(社会福祉、看護、健康・保健)との共同学習などもできればと考えています。</p> <p>また、東日本大震災にもふれながら、日常の生きづらさのなかでの子どものいのちと暮らし、支援とは何かについて取り上げたいと思います。</p> <p><ゼミ運営></p> <p>3年生では、全体での統一テーマとともに、各自のテーマの発見やそのテーマの歴史、国内外の動向、課題をめぐる先行研究、実践の実際やその課題などを深めていきます。</p> <p>4年生では、卒業研究として各自の論文執筆などが始まります。</p> <p><年間計画></p> <p>ゼミ室での学習や検討の討議、そして実践の現場や実践家からの聞き取り、フィールドワーク、学習会への参加、合宿など、外に出向くことも多くあります。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>◎登録前の事前面談：ゼミ希望者は、事前面談が必須です。何をやりたいかだけでなく、そのために、これまで何をやってきたのかを聞かせてください。</p> <p>◎教職や福祉職を将来の仕事にする人：教育や福祉、心理など、それぞれの理論や専門を学ぶこととともに、それらを「つなぐ専門性」について考えてみる。これはたくさんのチャレンジを含んでいます。</p> <p>◎ダブル・ライセンスへの志向：教員免許と社会福祉士の同時取得は在学中には難しいですが、学校福祉の専門職性について考えます。子ども福祉に強い教師、学校教育に根ざした福祉職とのクロスオーバー。</p> <p>◎本をよく読む人：学生時代に理論や援助・支援の技術に目が行きすぎると頭でっかちになります。でも、自己の考えを「映し出してくれる」ものとして、それをわがものとするために文献に親しめる人。</p> <p>◎学生生活の経験を生かす：子どもや人に関わる支援など、地域で様々なボランティアや学生サークルの経験を研究に活かせる人。</p>			